

巨人が山を射抜いた穴- 妙義山・星穴伝説-

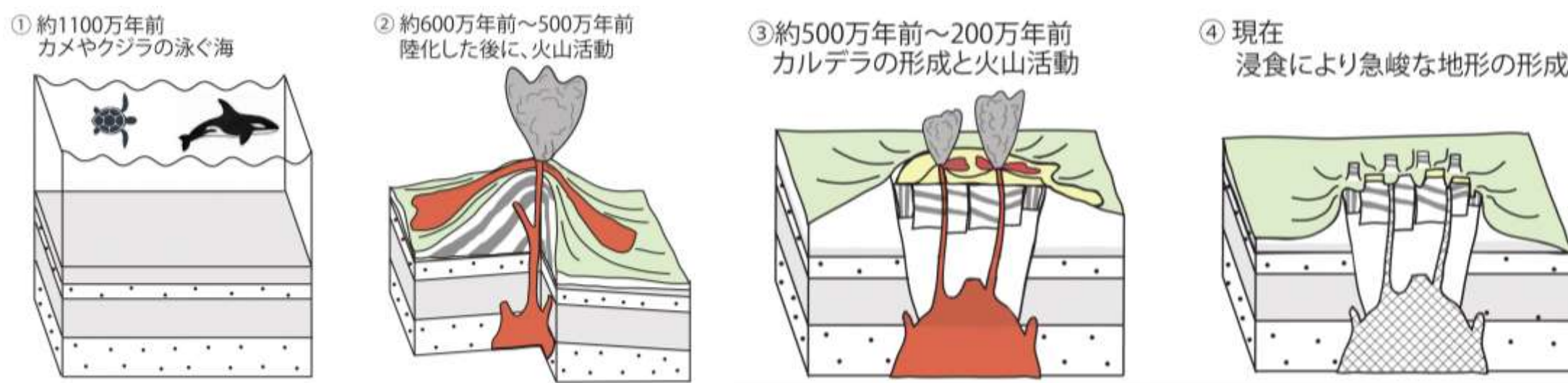
関谷友彦（ジオパーク下仁田協議会）

群馬県南西部にある妙義山は、国の名勝にもなっており、周りの丘陵地の中に突然、落差700mの絶壁がそびえ立つ岩山です。

この岩山は 安中市、富岡市、下仁田町の3市町村にまたがり、表妙義と呼ばれる石門群などの奇岩が見られる場所は下仁田ジオパークのみどころにもなっています。

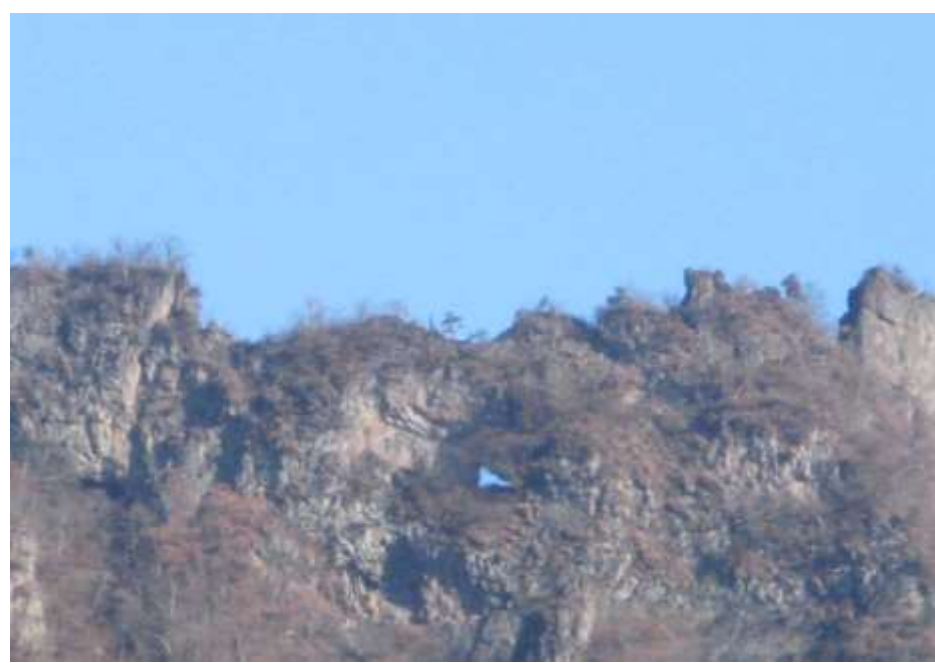
今回はこの表妙義の一つ星穴岳の岩壁の中腹に空いた穴にまつわる伝説を紹介します。

妙義山の成り立ち



表妙義（金洞山）

秋には色鮮やかにそまった紅葉が奇岩を彩り 県内屈指の紅葉ポイントになっている



旧 有料道路から見た星穴岳と射抜き穴

稜線の中腹に10m×10mの穴が空いており 遠くから見ると夜空の星のように見えることから星穴岳と名付けられた。射抜き穴は日本奇岩百景にも選ばれている。



石門群

妙義山中之嶽一帯には、石門やローソク岩と呼ばれる奇岩の数々があり、散策コースが整備されています。この石門は左で紹介した星穴とは異なるでき方をしています。

妙義山の本体は、今から約6～400万年前のカルデラを伴う火山の噴出物できており、活動後の長年の浸食でカルデラ内の硬い火山の石だけが浸食に耐えて、聳えるような岩山になりました。



足跡石 百合若大臣 足跡石

百合若大臣がふんで凹んだとされる足跡石。ここから、星穴岳に向かって矢を放った

一本岩

落差50m以上ある独立峰。星穴岳の射抜き穴を抜いた岩が突き刺さったと言われている。なお矢で射抜かれた岩から湧き出る川であることから矢川川と呼ばれている。



地点.3 一本岩

百合若大臣の伝説

大男の百合若大臣が旧松井田町小山沢（地点.1）から力比べをしようと妙義山に向かって矢を放ったところ、山腹を貫いた。この穴を「射抜き穴」（地点.2）と呼んでいる。

また、貫かれた岩が妙義山の西方約10キロの下仁田町高立集落に突き刺さったとき、これが「一本岩」（地点.3）だとされている。

一本岩を源流とした川は、「矢川川」と呼ばれている。

この百合若大臣に対抗し、周りの者が負けずと持っていたむすびを妙義山に投げてできた穴が「むすび穴」とされており、射抜き穴の上方に3m×5mの小さな穴が空いている。この時に百合若大臣が使ったと矢が妙義神社に奉納されている。

『木曾路名所図解』 百合若足跡石・射抜巖などの情報を基に



射抜き穴

山腹に空いた10m×10m奥行10mの穴。百合若大臣が放った矢で貫かれたという伝説が残る。

射抜き穴の成因

射抜き穴のある星穴岳の絶壁は上述したように火山噴出物からなり、凝灰角礫岩層が積み重なっており、間に玄武岩～安山岩質の溶岩を挟む。

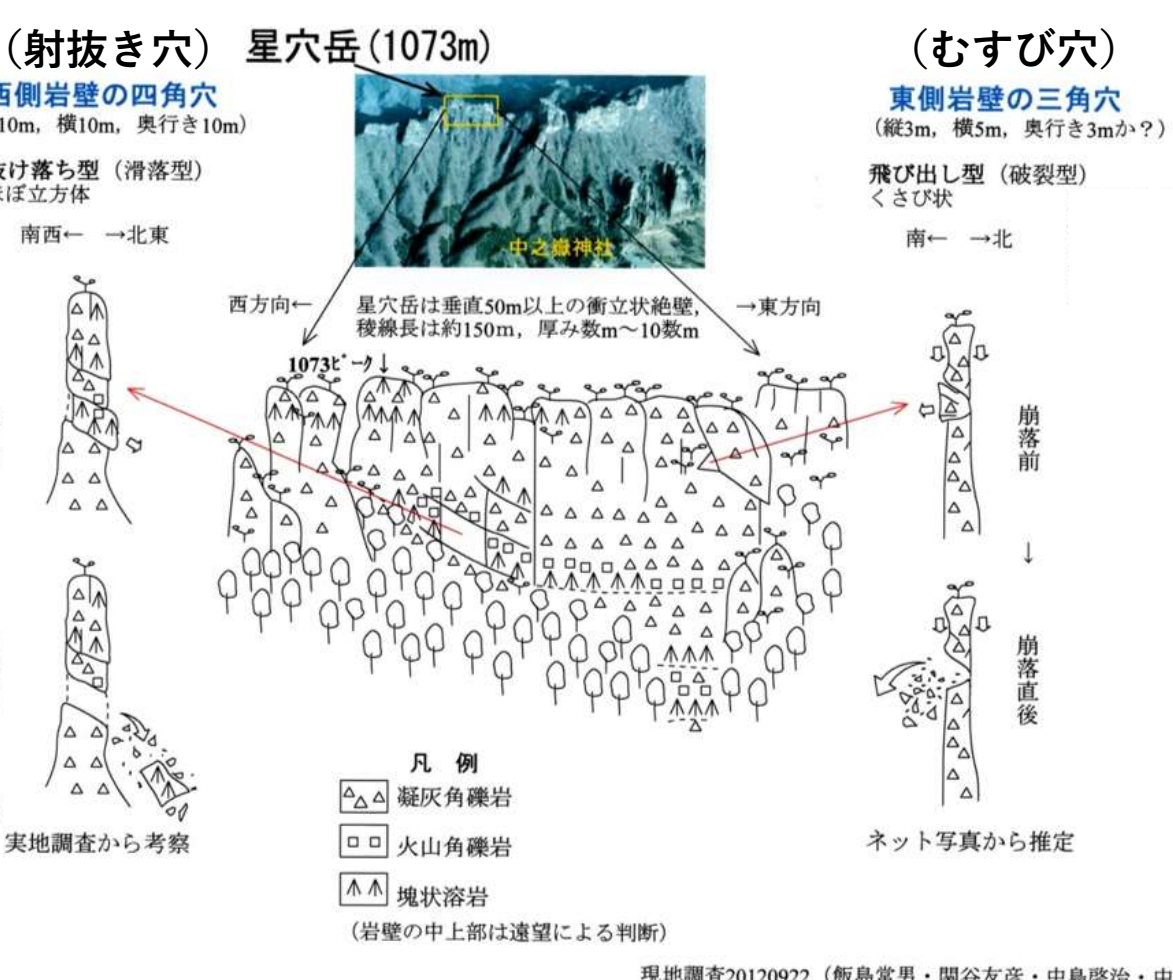
現地調査の結果、「射抜き穴」は溶岩の部分まるっと抜け落ちたようになっており、これは溶岩と凝灰岩の物性による差で亀裂ができて、落ちたものと推定されている。（右図）

尚、上記に記した石門群の形成過程とも異なると考えられている。

一本岩

一本岩は、高さ50m以上の独立峰でひん岩（半深成岩）質の岩脈からなり。年代は不明。岩体の中には、20-30cmほどの角礫も含まれている。

伝説の科学的見解



結論

地元に残された伝承は、今回自然科学的な調査の結果、成立しないことが判明したが、この伝承に基づく地名など裏付けのある証拠が残っていることも事実である。

古くから人々が不思議な景色に畏敬を抱いていた一つの題材として、科学的根拠を損なうことなくうまくジオパークの中で活用していきたい。

射抜き岩と一本岩は岩質から見て異なる岩石

⇒伝説を否定する結果